

# 平成29年度 災害時多言語情報センター運営訓練

## シミュレーション訓練 2 実施報告書

「災害時多言語情報センター」運営訓練 1 として、県内市町村及び市町村国際交流協会を対象としたシミュレーション訓練を実施したのに引き続き、当協会登録の通訳翻訳ボランティアを対象としたシミュレーション訓練を実施した。

### 1 日 時

平成30年3月14日（水）10:00～15:00

### 2 訓練参加者

協会登録の通訳翻訳ボランティア 5言語20人

（内訳：英語10人、中国語5人、スペイン語3人、ポルトガル語1人、タイ語1人）

（参考：訓練参加を依頼した登録者 28言語662人）

### 3 訓練内容

メールの送受信による多言語翻訳シミュレーション

No.	時間等 (目安)	作業
1	2月28日実施	被災者への提供情報の翻訳について、有無を確認。
2	2月28日実施	市町村及び市町村協会から、県協会へ翻訳依頼。(14市町)
3	10:33	<b>通訳翻訳ボランティアに、文書の翻訳依頼。</b> → <b>各ボランティアによる翻訳作業の実施。</b>
4	～17:52	<b>翻訳終了後、随時県協会へ翻訳情報の提供。</b>
5	2月28日実施	翻訳終了後、市町村及び市町村協会へ翻訳情報の提供。
6	2月28日実施	市町村は翻訳情報を受領。 被災者への情報提供。
	17:52	シミュレーション訓練の終了

### 4 訓練実施による課題等

- 今回の訓練を実施するにあたり、協会に登録しているメールアドレス登録のある全ボランティア（28言語662人）に参加を募ったが、不参加の連絡も含めて、返信のあった登録者が少なかった。実際の有事の際にも、メールでの連絡に頼らざるを得ず、必要な対応が可能かどうか不安である。

- 訓練では、同じ文書の翻訳を複数のボランティアに依頼したが、翻訳後の文書の内容にかなりの違いがあった。実際に翻訳文書を提供する際に、常に最良の文書を提供することの難しさを感じた。
- 提供情報の中の固有名詞、または頻出する災害時用語の翻訳（表記）方法について、事前にある程度のルールを設けておく必要があるのではないか。
- 各自治体から翻訳依頼のあった文書が行政用語等を使用したものであった場合には、「やさしい日本語」を介して多言語の翻訳する必要性もあるのではないか。